

# 社会科学部学生論文集発刊に寄せて

社会科学総合学術院長 早 田 宰

2021 年度は新型コロナウイルスの波状的な影響を受けながらも、大学の研究・教育もいわゆるニューノーマルといわれる感染対策をしながらの新しい日常生活がキャンパスの風景となりました。

カリキュラムは対面とオンライン講義のミックスで実施されました。仲間や教授とディスカッションしたり、フィールドワーク調査を行ったり、研究の基礎として必須とされる活動が次第に再開されてきましたが、それでもまだ思うように学生生活が展開できなかった人も多くいたのではないかと思います。海外からの入国はきびしい隔離期間の設定や入国制限がおこなわれており、留学や海外渡航は依然として難しい状況です。そのような中でも、各大学がオンデマンドコンテンツや学習プログラムを充実させたこともあり、学生はリアル・ヴァーチャルにグローバルイシューをフレキシブルに学ぶことができるようになっている面もあります。オンライン会議の習慣も社会に定着し、知識のシェア、知識の交換、知識の統合が進んできました。来るべき Society 5.0 時代の知識集約型社会に向けて、時計の時間が5年から10年、早回しになったように思います。

教育現場では「変容学習」(Transformative learning) がより重要なキーワードになってきました。オープンでしなやかな感性で変化を受け止め、とりまく周囲の変化を新しい視点から認識し、そして今までの自分の経験、知識、生き方・考え方では太刀打ちできないという深い悲しみを乗り越えて自分が変わってゆく学びです。変化の速いグローバル社会で複雑で多様なリスクがある社会に生きていく上で私たちに必要な学習の考え方であると思います。

すべての学修の中でも独自の思考の結果を論文としてまとめること、論文集に掲

載されることは学問の精髓であるといえます。知識や思考は果てしないからこそ、今現在の自分の到達点をまとめておくことが大切です。

2021 年度の学生論文集が発刊できたことについて、たいへん嬉しく思います。掲載された論文は高い水準を満たし編集委員で認められたものです。この論文集が社学生の思考と実践の新しいマイルストーンになればと思います。投稿していただいた学生の皆さんに改めて敬意を表したいと思います。

そして丁寧に論文指導をしてくださった教員や査読者の皆様に心より御礼を申し上げます。また、社学生の皆さんにはぜひ来年のご自身の投稿を期待しています。